

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ケアプランと介護記録の連動を図り、ケアプランに沿ったケアの実践とその記録から毎日がモニタリングとして活用できる取り組みにする。	介護記録とモニタリングの連動を図ることで、利用者個々のケアプランに活かせるように取り組む。	利用者の個人記録ファイルの見開き部分にケアプランとモニタリングの資料をわかりやすく掲示し、モニタリングと連動した記録を書くようにする。記録をもとにモニタリングとして活用し、ケアプランの見直しを行う。	6ヶ月
2	3	運営推進会議が家族会と同時開催されているが、家族の参加が少ない。ホームの取り組みの理解を深めるためにも課題を決め、説明会の開催等参加を増やす工夫が望まれる。	運営推進会議開催時の家族の参加、地域住民や市の職員の参加を増やす。	運営推進会議の課題を明確にし、家族の参加を促す。 居宅支援事業所や市とのかかわりを増やし、連携を図ることで、運営推進会議に参加しやすい環境作りを行う。	12ヶ月
3	2	ボランティアの人から介護相談や見学がある。運営推進会議の委員、ボランティアの人を通じてホームの情報を発信し、見学や介護相談を積極的に行っていくことが望まれる。	グループホームさくらについての情報を発信し、見学や介護相談も積極的に受け入れる。	グループホームさくらが行っている介護の取り組み等を知ってもらうために、ボランティアや地域住民、利用者家族を通じて見学会や介護相談会を開催する。相談会や見学希望のチラシやポスターなどを作成し掲示する。	12ヶ月
4	6	毎月発行している「さくら便り」の中に「家族からの要望・意見をいつでも伺います」の欄を設けて、意見が言える機会を作ることが望まれる。	家族の要望や意見を受け入れやすい環境作りを行う。	「さくら便り」中に家族からの要望・意見をいつでも伺います、という文章を追加し、意見をいやすくなる。要望や意見のあった際には、しっかりと耳を傾け介護や経営に活かすことで、家族の信頼との信頼を築く。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。